

平成 17 年度埼玉大学実験動物慰霊式

科学分析支援センター 畠山 晋

平成17年度埼玉大学実験動物慰霊式が9月22日(木)午後13時30分から理学部2号館第一会議室において行われた。これは科学分析支援センターの主催、理学部の共催によって催され、動物の御霊に対して感謝と安眠を祈る教職員、学生など74名が参席した。

埼玉大学では教育および研究のために毎年多くの実験動物が犠牲になっている。式では廣瀬卓司教授(科学分析支援センター長)より、このような実験動物に対する慰霊の気持ちの大切さと、動物の犠牲を伴う教育・研究において、飼育環境の整備と実験技術の洗練・成果の向上こそが動物たちの供養になることが述べられた。続いて利用者を代表して井上金治教授(理学部生体制御学科)より動物の御霊に対する「慰霊のことば」があった。動物実験の実績とその成果について述べられ、教育・研究における動物実験の重要性とそれに携わる者の心構え、そして犠牲となった動物に対する感謝の意が捧げられた。また式では参席者全員によって花が捧げられ、黙祷が行われて動物の御霊の安らかな眠りが祈られた。

「動物の愛護及び管理に関する法律」では、国民の間に広く動物の愛護と適正な飼養についての理解と関心を深めるため、9月20日から26日を動物愛護週間と定めている。埼玉大学においてもこの主旨を理解し、実験に供される動物に対して感謝の気持ちを常に忘れることなく、教育と研究において適正にかつ最大限の効果によって動物実験が行われなければならない。そして生命の尊厳について深い思慮をもった人材が慰霊の気持ちを通じて育まれることを祈るばかりである。

